

高校生・保護者から見た短期大学

編集部：短期大学マーケット研究班（小林浩 能地泰代 松本恵 鈴木規子）

短大進学者は「資格取得」「就職に有利」「校風や雰囲気」「自宅通学」を重視

大学・短大・専門学校進学者が、進学先を選ぶ際に重視する項目を見てみよう(図表1)。

短大の1位は「学びたい学部・学科・コースがあること」。次いで「資格取得」「就職に有利」「校風や雰囲気」「自宅通学」を重視している。

学校種におけるポイント差も比較してみる。まず短大が大学よりポイントの高い項目は、①「資格取得が有利」(+21pt)、②「就職に有利」(+13.2pt)、③「自宅から通える」(+6.1pt)で、「地元で資格を武器に就職したい」。これらのニーズから、大学より短大を選んでいるようだ。

反対に、大学が短大より高い項目は、①「有名である」(-13.7pt)、②「偏差値が自分に合っている」(-13.1pt)、

③「国際的なセンスが身につく」(-9.3pt)で、ブランドや偏差値、グローバル志向が、短大より大学の選択につながっている。

さらに専門学校のほうが短大より高い項目は、①「専門分野を深く学べる」(-29.5pt)、②「卒業後に社会で活躍できる」(-15.3pt)、③「社会で役立つ力が身につく」(-11.7pt)で、「目指す専門分野への就職につながる」ため、短大より専門学校を選んでいるようだ。

短大進学者は「キャンパスの雰囲気」「取れる資格」が知りたい

オープンキャンパスや学校見学会など、進学先校主催イベントに参加した高校生に、イベントで知りたかったことを尋ねた(図表2)。

まず大学と短大を比べてみよう。大学・短大進学者の1位はともに「キャンパスの雰囲気」。2位は大学が「学校で勉強できる内容」、短大は「取れる資格」と異なる。どちらも入学後の教育内容に意識が向いているが、短大は資格取得が特に重要なポイントだ。「在校生の様子や雰囲気」が3位と高いのも共通である。

短大が大学よりポイントが高い項目は、①「取れる資格」(+28.4pt)、②

「実習室や教室などの雰囲気」(+15.3pt)、③「就職状況」(+14.2pt)、④「学費等の詳しい情報」(+12.4pt)と、資格を取って就職につながる環境が整っているか、修業年限の短い短大を選択することからも、学費は大いに気になる点のようだ。

短大進学者の8割が進路変更層

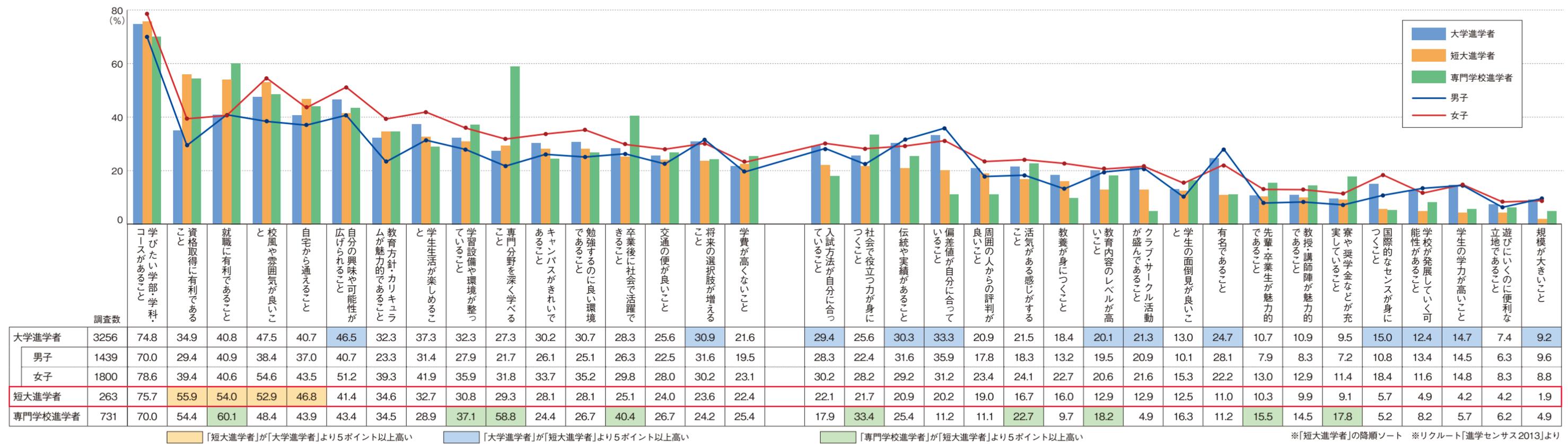
最終的に短大に進学した者に対して、希望進路の移り変わりがあったかを尋ねた(図表3)。すると、高校入学時に最初から短期大学を志望していたのは全体のわずか2割(19.4%)で、大学(43.0%)、未定(30.1%)などからの進路変更層が8割を占めていることが分かった。専門学校からの進

路変更は、高校3年春までの多い時でも1割超と低かった。

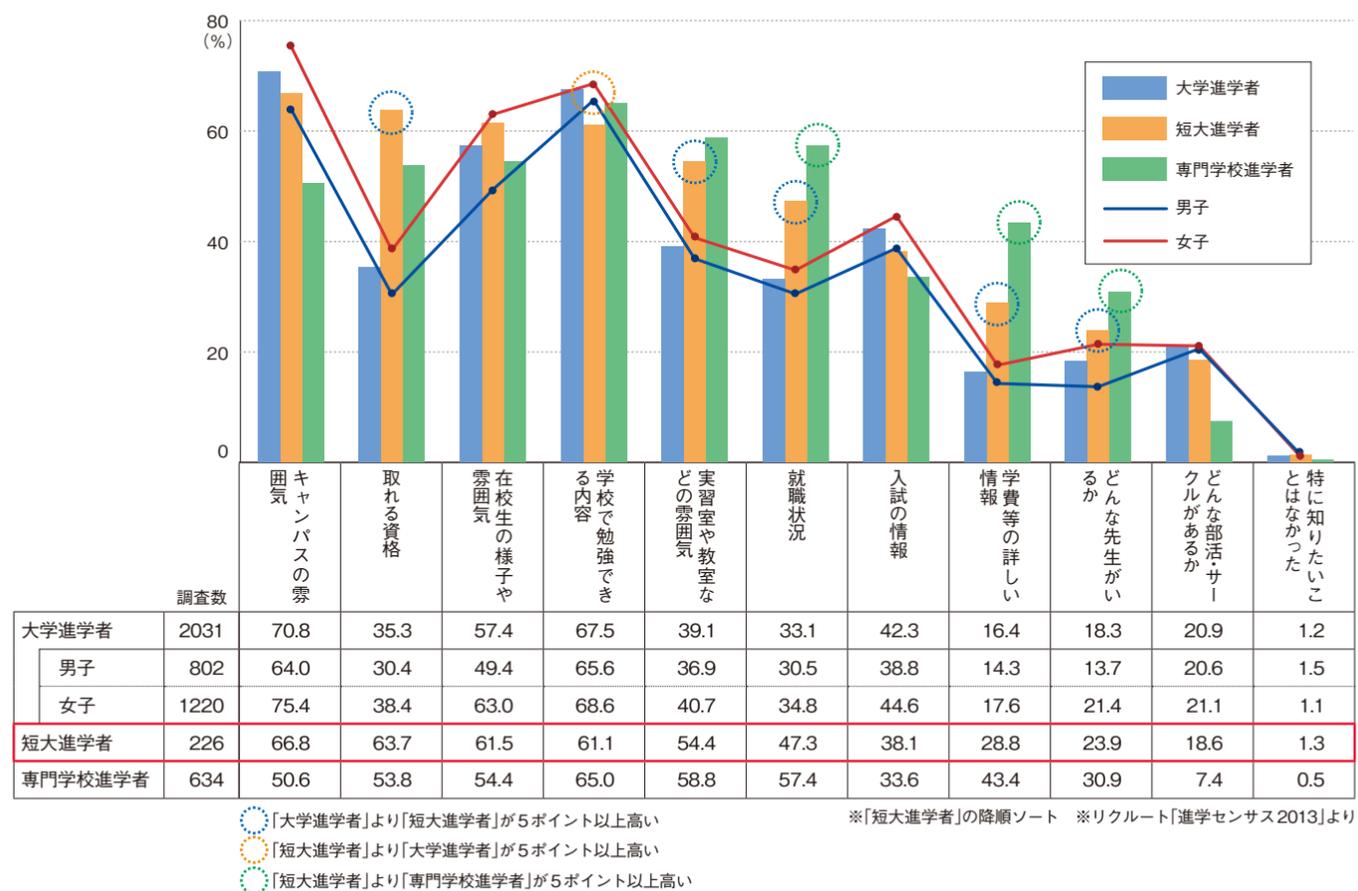
なお、図表には示していないが、最初から専門学校を志望していた生徒の割合は25.3%と短大より高い。大学進学希望者も34.3%と、短大の43.0%より低い。つまり、短期大学は当初大学志望の者から変わった割合が高く、専門学校は当初から大学ではなく専門学校を志望していた割合が高いのである。このことは、短期大学の志望を考える際には極めて重要である。

大学から短大に進路を変更した理由を見ると、学力や経済的事情で、大学より短期間に仕事に役立つ知識・技術を身につけられるとの回答が多かった。次いで、新しい分野や取り

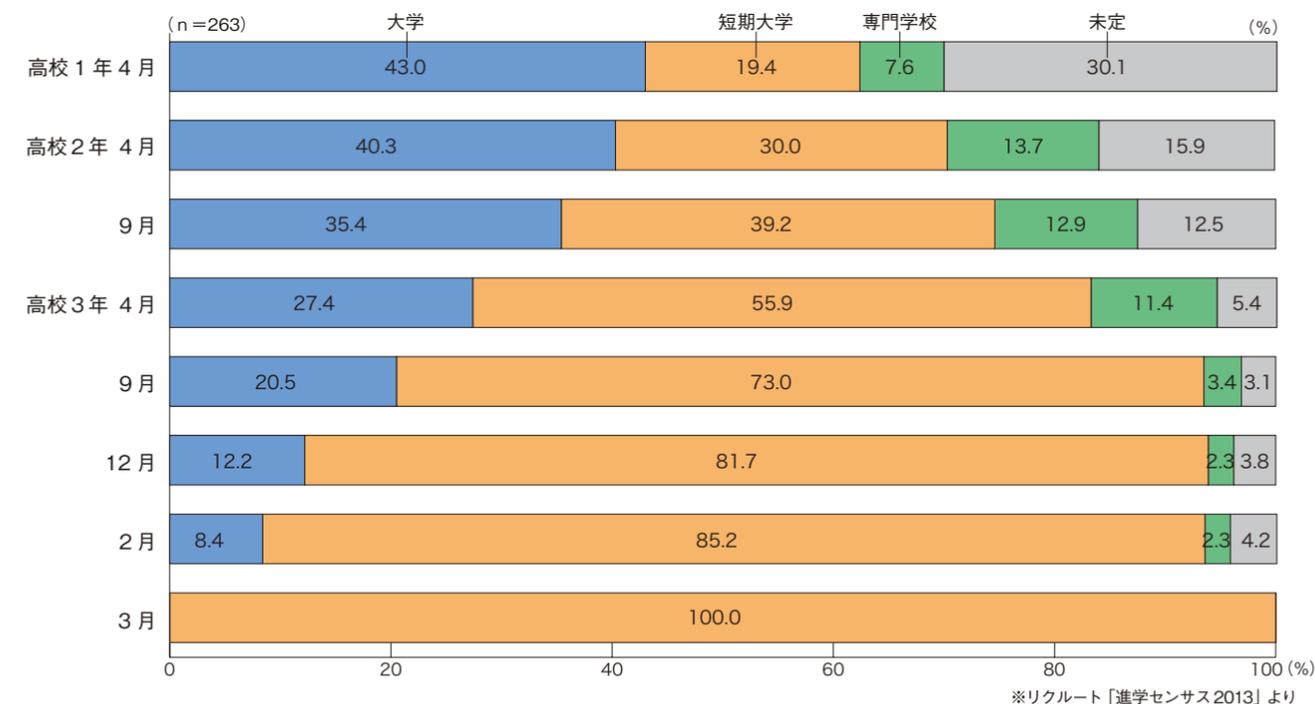
図表1 志望校検討時の重視項目 (複数回答)



図表2 進学先校 主催イベントで知りたかったこと (進学先校主催イベント参加者/複数回答)



図表3 短期大学進学者の希望進路の移り変わり (各単一回答)



たい資格ができた、先生や家族の勧めがあったなどが高かった。

短大進学の特長は「就職・仕事+キャンパスライフ」

では実際に、大学・短大・専門学校進学者別に、その学校種に進学するメリットを聞いたのが図表4だ。

最近の2013年の調査結果を前回の2011年と比べると、大学は「将来の選択肢が広がる」と、可能性が1番のメリットと回答。次いで、学生生活や、クラブ・サークル活動など、キャンパスライフの充実が2、3位となった。大学なら有名・大手企業への就職の道も開けると考えているようだった。

短大は、大学との比較から「早く社会に出られる」がトップ。就職ニーズが2~4位を占め、「少なくともどこかに就職できる可能性が高くなる

」が前回より順位を上げ2位に浮上するなど、短大のキャリア支援や面倒見の良さをメリットと見ている。「学生生活が楽しめる」が6位に入っている点が専門学校にはない要素で、「就職・仕事+キャンパスライフ」が短大進学の特長と捉えられているようだ。

専門学校は、「自分の目指す仕事・職種に就ける」がトップ。「特定の業種・業界に就職しやすい」「そこでしか学べない内容がある」も順位を上げ、「業種・業界+教育の特色」が専門学校進学の特長といえそうだ。

高校生の保護者が進路選択時に重要と思う情報は何か

高校生の保護者が重要と思う情報は、短大、専門学校のトップ3で同じで、①「進学費用」、②「資格取得の状況」、③「就職の状況」だった(図表

5)。大学のみ異なり、①「入試制度」、②「進学費用」「学部・学科の内容」③「将来の職業との関連」だった。

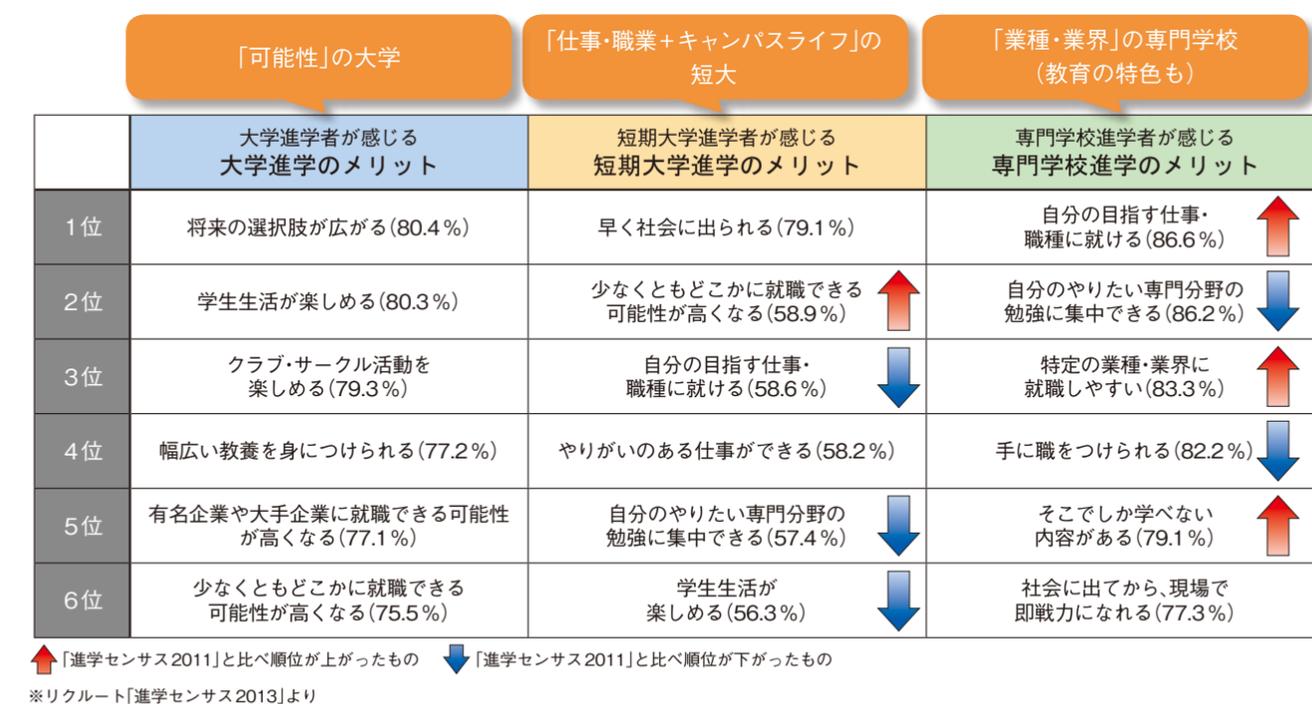
短大・専門学校への進学希望者の保護者は、費用と出口に対してシビアで、出口に見合う教育投資かどうかを目を向けているようだ。これに対し、大学進学希望者の保護者は、まずは入口の入試情報が優先され、次に費用、教育内容と職業の関連を重視しているという違いが見られた。

なお、大学に比べ、短大・専門学校の保護者は「学校種の違い」についての情報が重要との回答も多かった。

短期大学への示唆

さて、ここまでの高校生・保護者が進学先として短期大学をどうみているかをまとめたのが図表6だ。こうした環境の中、短大の方向性について

図表4 各学校種に進学した学生が感じるメリット (複数回答)



て以下のことがいえる。

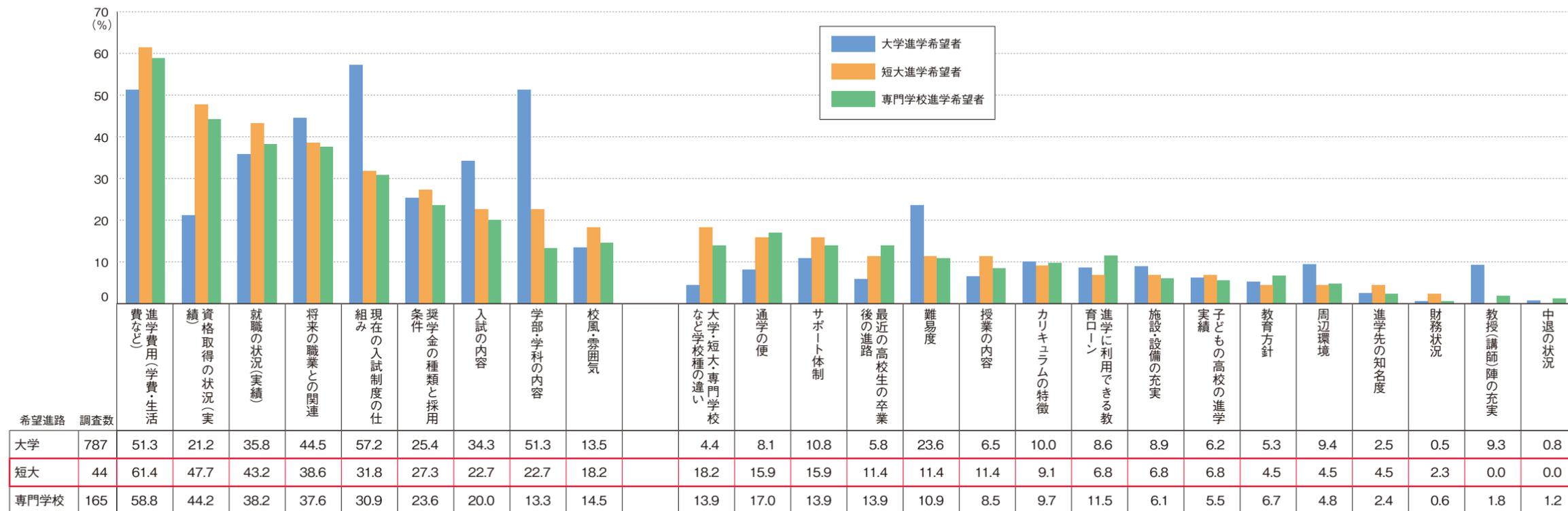
1) 仕事直結の資格

女性の社会進出や超高齢社会の到来で、短大の強みともいえる保育・幼児教育、看護学、医療技術関係などの資格を取得し、なりたい職業・仕事を目指す動きは今後も続く予想される。

2) 社会ニーズに対応したカリキュラムの開発

短期大学の入学者数がピーク時の4分の1に縮小する一方、専門学校はリーマンショック以降、入学者数の獲得では健闘している。これは専門学校が社会ニーズの変化に対応し、積極的に学科・コースの見直しを行ってきた結果と言えよう。学科改編での大学設置基準の制約はあるかもしれないが、短大でも、社会ニーズに対応し学科設置で募集を拡大している例も存在する。

図表5 保護者の特に重要な進学情報（進学希望者/上位3つまで回答）



※「短大進学希望者」降順ソート ※「第6回高校生と保護者の進路に関する意識調査2013」より

さらに、社会人の学び直しのニーズにもっと応える必要がある。この点も専門学校に優位性があり、2011年度学校基本調査から集計してみると、専門学校入学者のうち、約3割を

既卒者が占めている(図表7)。

以前より必要性が問われながら、なかなか進まない短期大学の社会人向けカリキュラムについて、再考する時期に来ているといえるだろう。

3) ジェネリックスキルを備えた「地元で働く女性ならではのキャリア(就職)」

地域には、「就職に強い〇〇短大」の定評を持つ短大が存在する(P28、32)。地域の一番校は、地元金融機関や地域密着企業から安定した人気があり、毎年一定の短大採用枠を設けたり、大学より競争倍率の低かったりする有名・大手企業もある。理由は、教養をベースに、ビジネスマナー、コミュニケーション能力、ビジネス文書作成スキルなど、即戦力としての「トレーニング」をしっかり受けているからだ。ただし大卒との違いも含め、キャリアプランを描くための支援も重要だ。

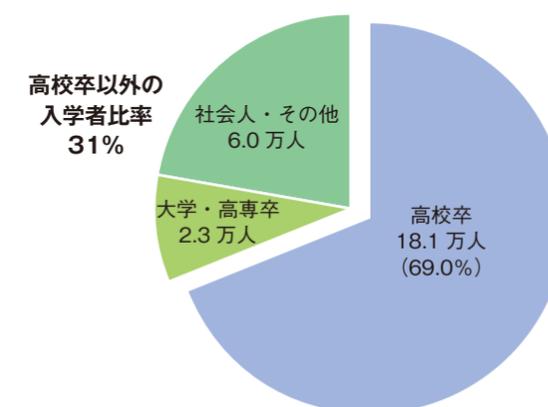
4) 大学への編入学

大学から短大への進路変更の理由

に、学力・経済的理由が挙げられた。やりたいことが絞れていないうちに、いきなり4年分の学費負担は厳しいという家計の状況もあるだろう。そこで、国公立大や有名私大への編入学支援に価値を置く短大もある。大学不合格層にとっては、再挑戦の機会となる。編入後、4年制大学で前半の2年間を過ごした学生より、就活などで高い実績を出す学生も育っているとの例もあった。

ただ、4年制大学が女子学生の確保に力を入れていることに加え、今後、景気回復に伴い、4年制大学指向が高

図表7 専門学校入学者比率



2011年度文部科学省「学校基本調査」より

まることも考えられる。その結果、短大進学者がさらに減少する可能性もある。そうならないためにも、卒業後を見据えた「特色ある教育・サポート」を高校生にわかりやすく伝え、短大ならではの価値を明確に打ちだしていくことが、今後も求められるだろう。

図表6 短期大学を取り巻く環境の整理

